

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【作業学習】

1. 対象

- ・知的障害特別支援学校 高等部 紙工芸班クラフトバンドグループ 8名
- ・本作業班は現在、紙すき製品グループとクラフトバンドグループに分かれて活動している。クラフトバンドグループは、1年生1名、2年生3名、3年生4名から成る。生徒の主障害は知的障害であり、自閉スペクトラム症やADHDを併せもつ生徒も所属している。指示理解については概ね口頭指示で理解できる生徒が多いが、全体指示の際には短く端的に話をしたり、文字や表で視覚的に提示したりすることでより理解しやすくなる。作業学習における製品作りへの関心が高く、任された仕事に最後まで取り組むことができる。これまで、地域にある洋菓子店への納品やららぼーと沼津での販売会を通して、自分たちの製品が売れる喜びを感じる活動を積み重ねてきた。

2. 単元名 「スマイルプロジェクト！パート1～お客様に喜んでいただける製品を作ろう～」
(全21時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・良品のポイントが分かり、規格通りに製品を作ることができる。
思考力, 判断力, 表現力等	・過去の販売状況やアンケートの結果から、人気の色や求められる製品の質の分析を行い、良品のポイントを考えることができる。
学びに向かう力, 人間性等	・良否の判断をしながら、自分の仕事に責任をもって取り組むことができる。

4. 本時の目標
省略

5. 授業展開【 単元 】

解決したい課題や問い
・どんなことをポイントにして製品づくりをしたら、お客様に喜んでもらえるだろう？

考えるための材料		
材料A	材料B	材料C
・保護者や納品先へのアンケートの実施	・販売の季節やイベントに合わせた配色表	・工程ごとの良品のポイントチェック表
想定される活動	想定される活動	想定される活動
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの集計を通して、人気の色や求められる製品の質に気付く。 ・製品の質を高めるための、良品のポイントについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配色表を見て、色の組み合わせを考え、工夫する。 ・友達同士で相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良品のポイントを自分で確認する。 ・難しい工程があったときに、自分で工夫したり、友達に教えてもらったりする。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

○設定する対話の方法（グループ形態、時間設定、留意事項など）

- ・単元の初めに、これまでに作った製品を確認したり、アンケートを実施・集計したりして、グループ全体でお客様に喜んでもらえる製品について意見交換する。
 - ・全体の進捗状況を確認して、担当する工程を教師や友達と相談する。又は自分で選択する。
 - ・同じ工程を担当する生徒同士で製品作りについてアドバイスし合う。（生徒同士の関わり）
 - ・教師への報告前に、自己チェックする。（製品との対話）

○対話や思考のプロセス

①アンケート結果から「お客様に喜んでもらえる製品ってこんな製品だよ。」「この色が人気みたいだよ。」「ここにこだわって製品づくりをしてみよう。」とアイデアを出し合う。

②資材や進捗状況を確認して、「この工程が溜まっているから、私がやります。」「資材が足りないから、資材切りをお願いします。」と教師や友達に相談したり、依頼したりする。

③同じ工程の友達同士で、「良品に仕上げるためには、どうしたら良いのかな。」「友達のやり方を真似してみよう。」「私はこんな風にやっているよ。」とアドバイスし合いながら、製品の質を高める工夫をする。

④良品チェック表を使って、「ポイントを守って製品づくり出来ているかな。」「もう少し編み目を詰めたほうが良かったかも。」「思ったより派手になってしまった。配色を工夫しよう。」

と製品を確認して自分なりに改善しようとする。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・「販売会で完売できた。」「こだわったポイントをお客様に褒めてもらえた。」と達成感を味わうことができる。
- ・「ポイントを確認しながら製品づくりをすることで、製品の質が高まった。」と実感し、「次はここを気を付けよう。」「もっとこうしたら良いかもしれない。」と製品の質を高めるためのアイデアを自分なりに考えたり、伝えたりすることができる。
- ・「もっとたくさん作って、たくさんのお客様に買ってもらいたい」と新たな課題（目標数）に気付くことができる。